

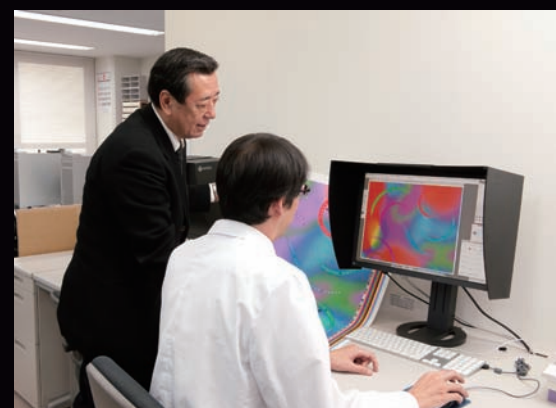
Works with ColorEdge CG246

ColorEdge CG246で滑らかなグラデーションを実現

「山田写真製版所カレンダー」をColorEdge CG246を使用して制作。立体感のある滑らかなグラデーションにバーコ加工をほどこした高度な特種印刷も、色再現性の高いモニターなら作業がスムーズに。

02 製版 & 印刷作業

RGBデータをCMYK+特色の計7色に変換し、そこからさまざまな色を重ね合わせて滑らかなグラデーションを作り込んでいく。制作はモノクロで行うことでスムーズになる。熊倉自ら大まかな修正をし、細かい網点情報などの変換指示を製造部門に指示



ColorEdge CG246

プロフォト、プリプレス、デザインの第一線を厳密な色管理でサポート

キャリブレーションセンサー内蔵
24.1型カラーマネージメント液晶モニター
お問い合わせ先：株式会社ナナオ
www.eizo.co.jp
☎ 0120-956-812



01 デザイン作業

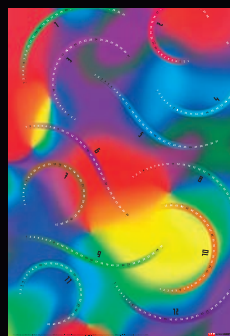
最初の段階で、熊倉がオリジナルのモニタープロファイルを作成し、勝井に共有。印刷をほぼシミュレーションできる環境を作った。10色印刷機の良さをアピールするため、できる限りたくさんの色を使いグラデーションを制作。2013年の干支である巳をイメージし、日付を蛇のようにくねくねとした模様にして配置。今回はiMacをツール類を置く作業スペースに、CG246の色を確認するメインモニターとして活用した。



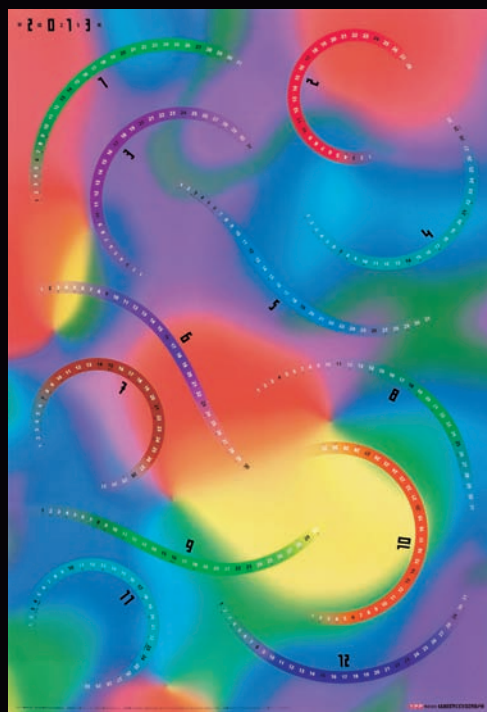
03 2回の色校正で完成へ

初校は色が強く出過ぎたため、バックにグレーを80%補色するなどの微調整を施した。日付は、グラデーションと溶け込みながらも、可読性を良くするためバーコ加工を施している。再校では、細かい色補正のみで完成へ

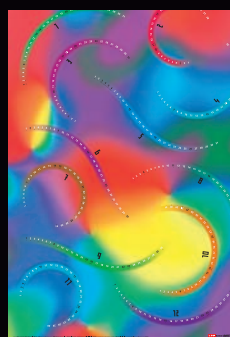
初校



完成



再校

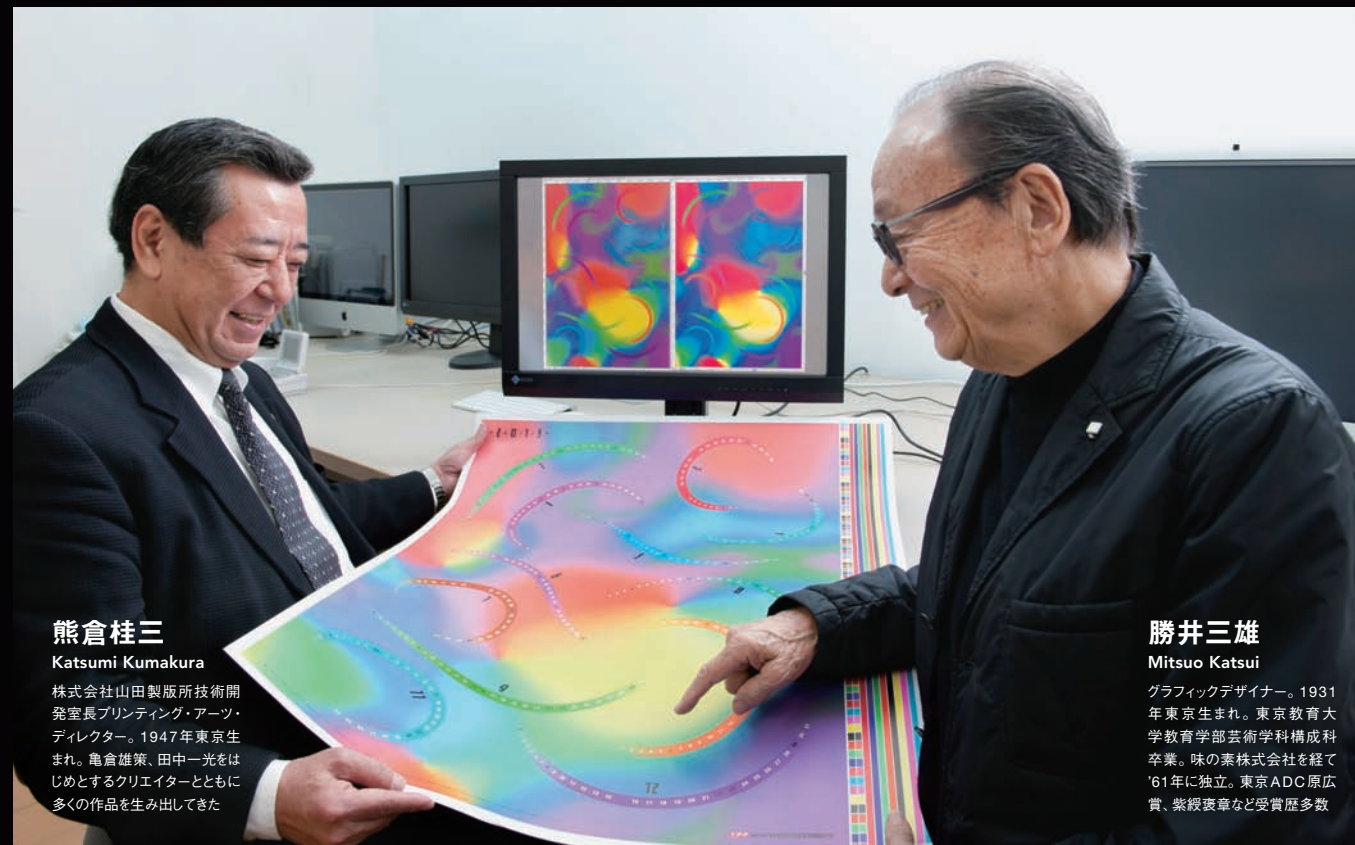


信頼のおける色管理でクリエイティブ環境を向上

EIZO「ColorEdge」新シリーズでカラーマネージメントを極める

Vol.3 勝井デザイン事務所～株式会社 山田写真製版所 編

写真＝高橋 榮 Takahashi Sakae 構成・文＝横田可奈 Yokota Kana



熊倉 桂三
Katsumi Kumakura
株式会社山田製版所技術開発室長
プリンティング・アーツ・ディレクター。1947年東京生まれ。亀倉雄策、田中一光をはじめとするクリエイターとともに多くの作品を生み出してきた

勝井 三雄
Mitsuo Katsui
グラフィックデザイナー。1931年東京生まれ。東京教育大学教育学部芸術学科構成科卒業。味の素株式会社を経て'61年に独立。東京ADC原広賞、紫綬褒章など受賞歴多数



美しさを驚きを感じさせる印刷物を作り出すプリンティング・ディレクター熊倉と、勝井は長きにわたり共同作品を制作している



カレンダーの前で途中経過を振り返る。デザインと印刷のプロフェッショナルによって完成したカレンダーは見るものを魅了する

グラフィックデザイン、デジタルフォト、CAD、CGアニメーション、出版、印刷。デジタル・ワークフローが一般化したクリエイティブの現場では、モニターが表示する色がクオリティの効率化の鍵を握る。これらの要求にハイレベルで応えられるモニター「EIZO ColorEdge」。本誌では3号連続で、新製品の魅力を伝えるべく、クリエイティブの現場に潜入。第三回は、色彩のマエストロ・勝井三雄と、プリンティング・アーツ・ディレクター・熊倉桂三といった、デザインと印刷のプロフェッショナルにより生まれた「2013年版山田写真製版所カレンダー」の制作現場に伺った。

独自のプロファイルを作成

プリンティング・ディレクター（PD）は、クリエイターが苦勞を重ねて作り上げた「アート」を現場作業として「定着」させる。印刷のプロフェッショナルだ。30年にわたり、亀倉雄策、田中一光をはじめとする多くのクリエイターとともに共同作業で作品を生み出してきた熊倉は、勝井ともまた、さまざまな作品をともに手がけてきた。今回は、勝井がデザインを手がけて8年目となる、EIDELBERGの10色印刷機を使用した「2013年版山田写真製版所カレンダー」制作に、ColorEdge CG246を使用した。ただ、両氏に、その使用感と、デザイナーとPDの共同作業におけるカラーマネージメントの重要性などを伺った。

熊倉 僕はColorEdgeを昔から使用していますが、モニターで見た色がそのままCMYKで再現されるから、印刷の現場にとても適しているんです。デザインの現場にも取り入れてもらって、より作業がスムーズになるでしょうね。先生はRGBの世界を追いかけている方だから、それを我々がいかにONMSの世界で忠実に再現するかが腕の見せどころなんです。

勝井 僕は初めて使ってみただけで、これは便利だね。細かいグラデーションの濃淡の修正を電話などでやりとりする上で、表示を信頼できる同じモニターで確認できるのは話が早い。作業効率を上げるという意味でもカラーマネージメントに対応したモニターを取り入れるメリットは大きいですね。熊倉 CG246は最上クラスのモニターで、キャリブレーションセンサー

が内蔵されているから、常に正確な色表示が可能なんですよね。これは画期的でした。今回は、このカレンダー用にオリジナルのモニタープロファイルを作ったんです。それを専用のカラーマネージメントソフトウェアColorNavigatorで簡単に作れるというところも特性ですよね。

ローコストを可能にする

勝井 今回のデザインは10色印刷機の良さをアピールする意味もあったので、できるだけ多くの色を使ったかったんです。一回目の入稿では、バックの色が強く出過ぎてしまったので、もう少し抑えるためにグレーを補色しました。細かいグラデーションの作り込みは熊倉さんにお任せしましたが、印刷の仕上がりをお互いのモニター上でシミュレーションできたので、再校の段階ではほぼイメージ通りの仕上がりになりましたね。

熊倉 先生の色へのこだわりは日本一ですから、こちらでも大変です（笑）。グラデーションが重なり合う部分がとても面白いですね。そこでトーンジャンプしたり、明るいところだけが目立ってしまったり、グラデーションの美しさが途切れてしまふ、滑らかさを追求していく上で、色再現性の高いモニターを使うことは必須です。

勝井 色校正の回数が少なく済むというのも大きいですね。良いモニターを使用していれば、印刷物によっては色校正をいわずに印刷することもできますしね。熊倉 そうですね。ハイクオリティ、ローコスト、短納期を可能にする、今後クリエイティブの現場には欠かせないツールなのではないでしょうか。